
2008 年度事業報告

I. 国際協力、フェアトレード普及・啓発事業

① モザンビーク支援

「Eco & Peace」プロジェクト

モザンビークマプト州モアンバ郡サビエ・マレンガーネ地域にある 4 地域（ボンドイア、ビジランシェア＝モプト、シニャングアニーネ、ワマニャンガ）の住民約 4,500 人（2008 年 3 月現在推定人口）を対象としたプロジェクトで、ゴールとして、モザンビークの地域開発財団(FDC)が、ブラジルのデザイナーや日系ブラジル人とともにフェアトレード商品を開発し、地域コミュニティ開発が行われている地域・マシエネをモデルとするものである。

2008 年度は、JICS（日本国際協力システム）の助成にて 1 名（アデリア・チャウケ・ヌヴンガ氏）、郵便事業株式会社の「寄附金付お年玉付郵便葉書及び郵便切手」に付加された寄附金による助成にて延べ 4 名（アウレリオ・ベネット・マナベ・ジュニア氏 2 回、アデリア氏、クリミルダ・フェルナンド・シスィコ氏）を研修生として受け入れ、それぞれ 2.5～3 ヶ月程度の短期研修を主に松山にて行った。（詳細は報告書参照）

また、1 月にモザンビークを訪問し、3 名の研修生と 2 名のボンドイアのコミュニティのリーダーとともにマシエネを視察し、今後のコミュニティ開発に関する意見交換を行った。帰国後には報告会を開催し、のべ 25 名の参加者とともにモザンビークの最新情報を共有し、今後の事業展開について協議を行った。

コミュニティ開発の具体化案について、JICA 四国支部と地域提案型事業、草の根パートナー型事業、草の根協力支援型事業の計画について相談しており、中長期プランを立てる準備を行った。

大統領来県受入

5 月 31 日、モザンビークよりアルマンド・エミリオ・ゲブザ大統領を含む 33 名が愛媛県を訪れ、そのための準備委員会および実行委員会を立ち上げ、事務局を担った。また、来県記念イベントとして、ディニス・マツォロ氏・CCM 本部事務局長、ニコラウ・ジュミッセ・ルイス氏・モザンビーク事務所コーディネーター、フィエル・ドス・サントス・ラファエル氏・武器アーティストを招へいし、モザンビーク支援に向けての啓発事業を行った。（詳細は報告書参照）

モザンビーク関係者往来

10 月 3・4 日、ダニエル・アントニオ在日モザンビーク特命全権大使が来県し、愛媛新聞カルチャースクールのモザンビーク料理教室の開講に立会い、また新玉小学校、愛媛信用金庫本店（武器アート展示見学）、農事組合法人無茶々園、株式会社愛亀を訪問した。

支援物資輸送

2008年秋～冬にかけて支援物資を輸送する予定であったが、現地での受入れ体制や配分・配布に関する打合せや準備が整わず、輸送費用も十分に確保できなかったこと、また、2009年夏に新玉小学校とのESD学習プランの中で支援物資輸送の時期を調整することとしたために、2009年度へ延期することとした。

武器アート展示

6月中旬より2週間は松山市役所ロビー、6月下旬～7月上旬の2週間は大街道「ナチュレ」において武器アートの展示を行った。また、書劇団りんくの「新生」公演、横浜（5月下旬）、東京（6月下旬）、松山（7月下旬）を共催し、7月22～29日は、松山市主催「平和資料展」（於：松山市総合コミュニティセンター1Fプラザ）においてモザンビークの活動紹介コーナーが設置され、「新生」は2階展示室で行った。

財団法人アサヒビール芸術文化財団の助成により、各地で展示をした。

募金箱設置

松山大学学祭実行委員会が主体となって、文化祭前後の約3ヶ月間、募金箱設置場所が増加した。学祭実行委員会からは募金活動で集まった95,356円を寄附していただいた。

現在、愛媛県内37箇所に設置している。

支援物資輸送のための街頭募金

2月～3月にかけてモザンビーク研修生、学生ボランティア（愛媛大学、新玉小学校、清水小学校、北条高校）とともに街頭募金活動を市駅前にて以下の通り、計4回実施した。

日 時	参 加 者	金 額 (円)
2月21日(土)	アデリア、クリミルダ、谷原、横田、新玉小学校6年生5名(計9名)	25,155
2月28日(土)	ベネット、アデリア、竹内、谷原、新玉小学校6年生4名、愛媛大学農学部1回生2名、清水小3年生1名(計11名)	30,042
3月7日(土)	アデリア、クリミルダ、谷原、北条高校1年生1名、新玉小学校6年生5名(計9名)	20,974
3月14日(土)	アデリア、クリミルダ、ベネット、谷原、新玉小学校6年生6名(計10名)	18,534
計4回	(延べ人数) 39名	94,705円

②フィリピン支援

アガリン・長瀬 KAFIN 代表とナプサ・サラ・PASASAMBAO 代表と、連携のあり方について意見交換を図り、2009年度国際協力論で講師として来県時に具体的な話し合いを行うこととした。

③東ティモール支援

横田創・Global Network for East Timor (GNET) 代表と連携を図り、現地に輸送した自転車の使用状況について確認を行った。現地では自転車といえばマウンテンバイクだと思われていたことや、首都ディリに代替交通手段があるため、訪問時の利用率は30%に

とどまっていた。今後は地方のトレーニングセンターで自転車を利用してもらい、3ヶ月に1回、利用状況を現地のパートナーNGOより報告してもらうこととなった。

④フェアトレードコーヒー、モザンビーク・マシエネのフェアトレード商品

ナチュレ、愛媛大学主催の「おいしいコーヒーの真実」上映会、マネキネマ主催の「今夜、列車は走る」上映会において出店し、フェアトレードの普及・啓発を行った。

⑤フェアトレードカフェショップ

故宮本氏の遺贈による東雲町の建物をフェアトレードカフェとして活用するため、シロアリ駆除・改築工事を行い、開店準備を行うこととした。

II. 環境保全事業

①水辺環境保全活動推進事業

環境省水辺の環境保全促進事業を受託したため、大川近隣の小学校3校（湯築・東雲・清水）、中学校3校（道後・東・勝山）、高校1校（北）の全校生徒、大学2校（愛媛大学・松山大学）関係者への啓発を行った。

当日の参加者は97名にのぼり、午前中は5班に分かれて清掃活動と、愛媛大学ESDチームを中心に生物・水質調査を行った。午後は清水公民館においてシンポジウムを開催し、午前中の活動報告と、他地域の河川清掃の事例、愛媛大学の環境ESDの取組み、水辺環境保全の課題等について発表・グループディスカッションを行った。今後の水辺環境への取組みの参考資料として、データや情報を利活用できるよう報告書を作成し、参加者や近隣の学校等に配布した。

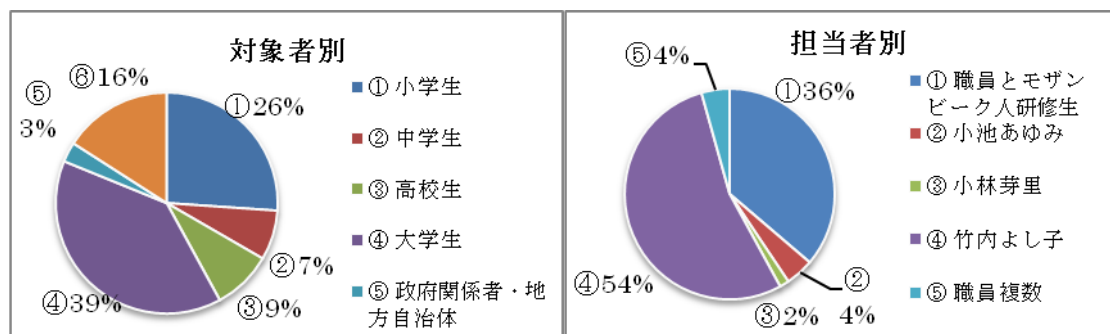
②愛リバーサポーター

愛媛県「愛リバーサポーター制度」に登録しており、護国神社前を流れる大川の清掃を、「アースデイ月間」中の4月27日と「えひめ山の日」がある11月の22日に行った。11月の開催は、①水辺環境保全活動推進事業と併せて実施した。

III. 地球市民教育・持続可能な開発のための教育(ESD)普及

①講師派遣

総合的学習（国際理解教育・環境教育・平和教育）の講師として小・中・高校、大学、その他の会合で派遣依頼を受け、別紙①の通り、延べ69件（平均5.7回/月）の講師派遣を行った。講師派遣依頼の様式（別紙②）を整え、派遣ガイドラインを作成した。



謝金額（対象者別）

	件数	謝金合計(円)	1件あたりの平均額(円)
小学生	18	110,050	6,114
中学生	5	66,400	13,280
高校生	6	57,000	9,500
大学生	27	463,869	17,180
政府関係者・地方自治体	2	67,200	33,600
その他	11	349,200	31,745
合計	69	1,113,719	(全体平均)16,141

②グローバルカレッジ

開講以来参加している2名を対象に月2～4回開催し、年度内に閉鎖する予定だったが、モザンビーク大統領来県による事務対応を優先したため、実質4月中の1ヶ月で閉鎖した。また、青少年育成を目的として合宿・ワークショップ形式での短期開催を検討する予定だったが、2009年度より実施することとした。

③コープ自然派えひめESDチーム

コープ自然派えひめESDチームと共催で丹下晴美先生を講師に招き、ESD勉強会3回連続講座として開催した。詳細は会報2月号で報告した通りである。

④持続可能な開発のための教育の10年推進会議(ESD-J)

10月3日、ESD-Jと共催し、政策提言ワークショップを新玉小学校にて開催した。また、ESD-Jが発行するテキストブック原稿の一事例として愛媛側で執筆することとなった。(2009年6月発行予定)

⑤愛媛大学現代GP・環境ESD指導者養成講座

環境ESD瀬戸内会議に参加し、講義を担当するなど協力した。2009年3月7日、モザンビークのルリオ大学関係者等を招いた愛媛大学主催国際シンポジウムの開催において、パネラーとして参加協力を行い、3月9日にMOU(覚書)を調印したことでESD-RCE申請に向けて協力することとなった。

IV. NGO/NPO および地域のネットワーク事業

①大統領受入実行委員会

5月31日、モザンビーク大統領来県の決定を受け、歓迎レセプションを開催するなどのイベント企画を行い、事務局を担当した。また、記念Tシャツ、マグカップを製作した。

②日本・モザンビーク市民友好協会

当団体に事務局を置く「日本・モザンビーク市民友好協会」の事務を行った。

③環境省「四国環境パートナーシップオフィス(四国 EPO)」

環境省受託事業として、高松において四国環境パートナーシップオフィス運營業務を行った。詳細は、別紙③参照のこと。

④四国 NGO ネットワーク (SNN) 関連事業

SNN 事務局として、会員・HP・会計管理など全般を行い、毎週メルマガ配信を行った。JICA 四国委託事業の愛媛大学、徳島大学、香川大学、高知大学「四国・国際協力論」実施した(主催：SNN・JICA 四国・4 大学)。また、第 9・10 回四国 NGO 研修、四国 NGO ネットワーク総会、JICA 四国・四国 NGO ネットワーク共催の会議「NGO ラウンドテーブル」に参加した。

⑤愛媛新聞社カルチャースクール

愛媛新聞とアフリカ・モザンビークについて紹介する講座を 2008 年 10 月より開設し、第 1 期 10 月より 12 月まで、月 2 回計 6 回、第 2 期 2009 年 1 月より 3 月まで月 2 回計 6 回の講座を開催し、合計 117 名、1 回平均 10 名が参加した。

*その他、他団体セミナー等への参加、開催協力などは、別紙④参照のこと。

V. 情報提供・相談業務事業

①NGO 相談員

外務省の委嘱を受け、2008 年 5 月 1 日より 2009 年 3 月末まで NGO 相談員としての相談業務に応じた。毎月報告書を提出し、出張サービスを 6 回実施した。相談件数は、合計 420 件、月平均 38 件である。また、第 1 回(東京)、第 2 回(山形)「NGO 相談員連絡会議」に出席した。年次報告のデータは別紙⑤を参照のこと。

VI. 管理運営等

①不動産取得

当団体の活動に賛同いただいていた故・宮本君子氏の遺言により、財産(松山市内にある土地・中古建物 1 件[星岡町、昭和 48 年築]、中古建物 1 件[東雲町、昭和 44 年築]の不動産)について特定負担付遺贈を受け、それに伴うさまざまな手続きや契約が完了した。受遺者として法定代理人他の諸関係者・機関への支払義務があり、また土地・建物の登記や保険あるいは修繕に伴うさまざまな費用が発生している。なお、財産目録に「東雲町の建物」「星岡町の土地・建物」という「固定資産」として計上された。

②理事体制

JICA アドバイザー派遣を利用して理事・スタッフ研修の開催を行い、組織強化を図った。理事・顧問・監事が東京、香川、愛媛(松山・西条)に在住であることから理事メールを活用し、意見交換を図った。5 月 15 日、10 月 4 日に理事会を開催し、事業内容および組織運営に関する意見交換を図った。2008 年度の理事体制は以下の通り。

役 職	氏 名
代表理事	竹 内 よ し 子
理 事	岡 田 奈 知
	小 林 芽 里
	世 古 一 穂
	藤 山 健
	松 本 啓 文
監 事	鈴 木 靖 彦
顧 問	藤 本 豊 實
	矢 野 玄

役員総数：9名（理事：6名 監事：1名 顧問：2名）

③臨時総会

11月4日、臨時総会（於：みゆき会館）を開催し、①の不動産取得に伴う定款変更、事務所移転について意見交換を図った。（出席者24名、内委任状出席者15名）

④成果物

当団体が製作した成果物については、以下の通り。

発行／完成月	名 称	事 業 名	数 量
2008年4月～ 2009年3月	WAKUWAKU News Letter （日本語版／英語版）	広報	各月500部
5月	絵本「カニマンボウ！」	絵本製作プロジェクト	
	ECO&PEACE Tシャツ		1,000枚
	マグカップ		100セット
6月	チラシ「フェアトレードはじめてみませんか？」	フェアトレード普及・啓発事業	500部
	ゲブザ・モザンビーク大統領 来県記念レポート	大統領受入事業	1,000部
10月	武器アート展チラシ『武器アートに平和の祈りをこめて「銃を鋏へ」～真の平和構築～』	（財）アサヒビール芸術文化財団助成事業	
3月	水辺の環境保全活動推進イベント「つなげよう！身近な水辺 エコの輪！」 報告書	環境省水辺環境保全活動推進事業	40部
	「物資輸送を通じたフェアトレード促進 & 国際理解教育プロジェクト」報告書	JICS NGO 支援事業	10部
	HOPE！希望！ESPERANÇA！～モザンビーク人研修生レポート～	郵便事業株式会社助成事業 モザンビーク人研修生受入	250部
	ESD（Education for Sustainable Development）Training Project in Matsuyama, Japan for young Mozambican leaders*「HOPE！希望！ESPERANÇA！～モザンビーク人研修生レポート～」英語版	郵便事業株式会社助成事業 モザンビーク人研修生受入	4部

⑤広報

会報を毎月発行した。7月号と8月号については、大統領受入時の残務処理のため、発行が遅れ、2ヶ月分の合併号とした。また、岡田奈知氏による英訳会報を、国内外の外国人関係者に配布した。ホームページについては、会報の情報を基に、定期的に内容を更新した。

また、各種メディアの取材に応じ、新聞・テレビにおいて EGN の活動を広く紹介し、NGO 活動への理解や参加促進を図った。

⑥当団体活動紹介・掲載

他団体および個人による当団体の活動紹介・掲載については、別紙⑥の通り。

⑦受賞、表彰

受賞

1月8日第57回愛媛新聞賞、2月14日松山市市政功労賞を受賞した。

表彰

第2回ボランティア輝き賞の表彰式を行い、受賞者の小澤ヨシ子氏をはじめとして、感謝状を岡田奈知氏、深井浩枝氏および深井家御一同、藤本豊實氏に贈呈した。

以上